

令和3年度

全国学力・学習状況調査の結果(尾鷲市)と今後の取組について

令和3年10月12日

尾鷲市教育委員会

令和3年度全国学力・学習状況調査が、5月27日(木)に小学校6年生と中学校3年生を対象に実施され、その結果が8月末に公表されました。

尾鷲市教育委員会では、本市における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組について以下の通りまとめました。

1 調査概要

(1) 目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握、分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 実施日 令和3年5月27日(木)

(3) 調査実施人数 小学校6年生 103人、 中学校3年生 116人

(4) 調査内容

① 児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕

下記の2点について一体的に問う問題

- ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

② 学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

2 調査結果の取扱いに関する配慮事項（実施要項抜粋）

調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要であることに留意し、適切に取り扱うものとする。

調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である。一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である。

3 教科の調査結果概要

学力調査の問題は毎年異なることから、平均正答率は問題の難易度により毎年変化し、年度間の平均正答率による単純な比較はできません。

そこで本市では、文部科学省から配布されている「標準化得点換算ツール」を使用して、その年の全国平均正答数を100とした場合の本市における得点状況を算出しております。そうすることで、全国的な状況との関係について年度間の変化を経年で比較することができます。H28年度～H30年度に小学校6年生で受験した子どもたちが、それぞれR1年度～年度の中学校3年生で受験していることから、経年変化だけでなく、その学年の子どもたちの変容を把握することも可能です。

令和3年度全国学力学習状況調査結果より（標準化得点経年変化）

尾鷲市教育委員会

	小学校調査					中学校調査					
	国語		算数		理科	国語		数学		理科	英語
	A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)		A(知識)	B(活用)	A(知識)	B(活用)		
全国	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100
R3	96		98			96		96			
R2											
R1	97		97			97		97			97
H30	96	95	94	94	94	98	97	98	97	96	
H29	96	96	94	95		97	99	99	98		
H28	100	98	99	98		96	96	97	97		

小学校では、いずれの教科も全国平均正答率を下回っていますが、算数については、改善されており、昨年度調査結果からの課題分析、授業改善等の取組の成果がうかがえます。

中学校では、いずれの教科も全国平均正答率を上回ることができませんでした。小学校6年生当時（H30年）と比べ、改善傾向がみられることから、引き続き、課題を分析し、定着を図るための取組を進めていく必要があります。

4 各教科に関する調査結果の分析

小学校国語（◇強み ◆弱み）

- ◇ 目的や意図に応じ、資料を使って話すことができます。
- ◆ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことに課題があります。
- ◆ 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付けることに課題があります。
- ◆ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することに課題があります。

<課題が見られた具体的な設問例>

- ③三(1)ウ 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題
次の_____部ウを漢字でていねいに書きましょう。

また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められたところに置かれず、すみの方につみ重ねられています。
ウ

(正答)積(み)

③【書くこと】自分の考えを主張する文章を書く

二 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する問題

3

丸山さんの学級では、国語の学習で、気持ちよく学校生活を送ることができるよう、自分の考えを学級の友達に主張する文章を書くことにしました。次は、丸山さんが書いた【文章の下書き】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【文章の下書き】

一人一人が責任をもってかたづけよう

丸山 理子

わたしは、だれもが気持ちよく生活するために、一人一人が責任をもって使った物をかたづけることが大切だと考えます。

みなさんは、休み時間後の校庭にボールが残されたままアころがっているのを見かけたことはありませんか。わたしは、ときどき見かけることがあります。イ時には、みんなが使っていた一輪車がかたづけられずに残されています。また、遊具置き場では、一輪車や竹馬が決められた所に置かれず、すみの方にウつみ重ねられています。かたづけわすれたり時間がなくてかたづけられなかったりすることが、エげんいんなのだと思います。オその他にも、遊び終わったらすぐに遊具をかたづけることがむずかしい場合もあるでしょう。それでも、きちんとかたづければ、わたしたちは気持ちよく遊ぶことができると思います。

きちんとかたづけることが大切ならば、そうじたん当の人などがかたづければよいという考えもあるかもしれませんが、確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

遊具だけではありません。そうじの道具や図書館の本も、使った人が元の場所にきちんとかたづけておけば、次に使う人は気持ちよく利用することができると思います。

学校の中がきれいになると、わたしたちは気持ちよく生活できます。そのためにも、わたしは、一人一人が責任をもってかたづけることが大切だと考えます。

二 丸山さんは、——部の「そうじたん当の人などがかたづければよい」と考える人を説得するために、【西田さんの話】を用いて【文章の下書き】の——部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましょう。

【西田さんの話】（遊具置き場のそうじ担当）

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることもあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。



西田さん

〈条件〉

- 「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見と、その理由を書くこと。
- 【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内で書くこと。

(正答例)

しかし、遊具置き場のそうじは、かたづけで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たん当の人だけに任せると大変なので、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。(100字)

小学校算数（◇強み ◆弱み）

- ◇ 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができています。
- ◇ 条件に合う時刻を求めることができています。
- ◇ 複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べる問題では、全国平均を上回っています。
- ◆ 速さを求める除法の式と商の意味を理解していることに課題があります。
- ◆ 三角形の面積の求め方について理解している問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述する問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述することに課題があります。

<課題が見られた具体的な設問例>

②三角形や四角形の面積

(1)【図形】直角三角形の面積を求める式と答えを書く問題

図1のような直角三角形があります。

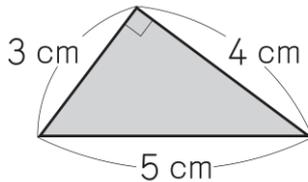


図1

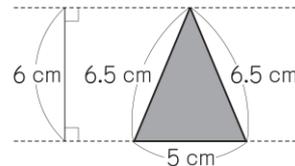
図1の直角三角形の面積は何 cm^2 ですか。
求める式と答えを書きましょう。

(正答例)

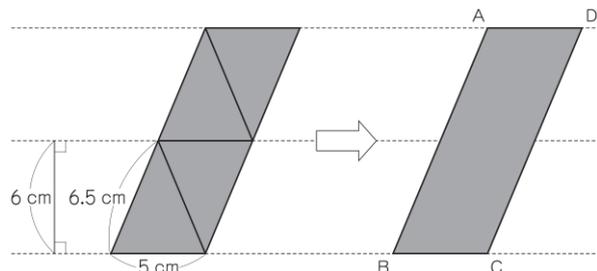
式 $3 \times 4 \div 2$ 答え $6 (\text{cm}^2)$

(3)【図形】二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題

次のような二等辺三角形があります。



上の二等辺三角形を4つ使い、
次のように、同じ長さの辺どうしを
合わせて、平行四辺形A B C Dを
つくりました。



平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形A B C Dの面積を求めます。

辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形A B C Dの高さをどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、平行四辺形A B C Dの面積が何 cm^2 になるのかも書きましょう。

(正答例)

辺BCを底辺としたとき、高さは、 $6 \times 2 = 12$ で、 12cm です。
平行四辺形A B C Dの面積は、 $5 \times 12 = 60$ で、 60cm^2 です。

中学校国語 (◇強み ◆弱み)

- ◇ 質問の意図を捉えることができます。
- ◇ 文脈に即して漢字を正しく読むことができます。
- ◆ 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 文脈の中における語句の意味を理解することに課題があります。
- ◆ 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解することに課題があります。
- ◆ 相手や場に応じて敬語を適切に使う問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。

<課題が見られた具体的な設問例>

1 【話すこと・聞くこと】話合いをする(地域清掃活動)

三 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題

① 各校の取り組みについて、質疑応答に入ります。今日は、原則として、一つの質問に対する答えが終わってから、次の質問をするようにしてください。地域清掃活動を活性化させるために、他校に聞きたいことはありませんか。

② 第一中学校に質問があります。担当する清掃場所を細かく分ける取り組みに興味をもったのですが、その取り組みで清掃活動はどのように活性化したのですか。

③ 第一中学校では、清掃場所を細かく分け、担当する場所を自分たちで決めることによって、一人一人が責任をもって活動するようになりました。また、本校は地域の方と合同で清掃活動を行っているのですが、そのための事前打ち合わせに、昨年度は担当場所の代表も参加しました。その結果、地域の方といっそう協力して取り組むことができるようになりました。

④ 一人一人が責任をもって活動するようになったということですね。また、地域の方との打ち合わせに担当場所の代表が参加したことも、活性化につながったということでした。青空中学校の山下さん、よろしいですか。

⑤ はい。ありがとうございます。青空中学校では、生徒だけで清掃活動を行っていますが、今後は地域の方と合同で行うことも検討してみたいと思います。そこで、もう少し質問したいことがあります。第一中学校では、地域の方との合同の清掃活動をどのような手順で進めているのかを、具体的に教えてくださいませんか。

⑥ 西中学校でも、地域の方との合同の清掃活動を考えたいと思います。また、実施回数も見直そうと思うのですが、回数を増やしたことで生徒たちの取り組み方がどう変わったのかを、青空中学校に質問したいです。

話し合いの一部

梅山市中学校代表者会議 資料

- 日時 5月20日(木) 15:50~16:30
- 参加者 第一中学校：本田(司会)、石川
青空中学校：山下
西中学校：大野
- 目的 各校での地域清掃活動を活性化するために、昨年度行った取り組みの工夫について情報交換を行う。
- 会議の流れ

(1) 会議の目的の説明	(3分)
(2) 各校の取り組みの報告	(各校3分)
(3) 質疑応答	(25分)
(4) まとめ	(3分)
- 各校の取り組み

学校名	昨年度行った工夫
第一中	担当する清掃場所を細かく分ける。
青空中	実施回数を年1回から3回に増やす。
西中	実施時期を5月から8月に変える。

資料

1 梅山市の中学校では、各校の代表が参加し、地域清掃活動についてテレビ会議を行っています。この会議の司会は、第一中学校の本田さんです。次は、各校の代表に配られた「資料」と、「資料」にある「(3) 質疑応答」での「話し合いの一部」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。(話し合いの一部)の①から⑥は、発言の順序を表します。

三 西中学校の大野さんの発言⑥のあとで、参加者の一人が発言します。あなたは、誰がどのようなことについて発言するとよいと考えますか。また、そのように考えたのはなぜですか。本田さん、石川さん、山下さんの中から一人を選び(どの参加者を選んでもかまいません)、次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1 【話し合いの一部】の1から6までのやりとりを踏まえ、どのようなことについて発言すればよいのかを書くこと。

条件2 条件1のように考えた理由を具体的に書くこと。

(正答例)

・本田さん
本田さんが、次の発言者として石川さんを指名する発言をすればよい。なぜなら、山下さんの質問に石川さんが答える前に、大野さんが別の質問をしたからだ。

・石川さん
石川さんは山下さんの質問にまだ答えていないので、石川さんが、その質問に対する答えとなる地域の方との清掃活動の手順について発言すればよい。

・山下さん
山下さんが、自分の質問に先に答えてほしいということについて発言すればよいと考えます。なぜなら、石川さんがまだ山下さんの質問に答えていないのに、大野さんが山下さんに次の質問をしたからです。

2 【書くこと】意見文を書く(言葉の使い方)

一 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題

【意見文の下書き】

2 山田さんは、国語の時間に、「言葉の使い方について」というテーマで意見文を書いています。次は、山田さんが書いた【意見文の下書き】です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。(1)から(4)は、段落の番号を表します。)

1 SNS(ソーシャルネットワークワーキングサービス)などを活用し、インターネット上で文字を通したやりとりをする機会が増えてきている。私は、SNSでやりとりをする際は、相手にどう伝わるかをよく考えながら言葉を選んで使うべきだと思う。SNSは少ない文字数で自分の思いや考えを表現することが多く、相手に伝えたいことが正しく伝わらないことがある。(A)からだ

2 以前、私は次のような経験をした。SNSを使い、みんなで待ち合わせの相談をしていたときのことである。一人の友達に対して、待ち合わせの場所までの交通手段を尋ねるつもりで「何で来るの。」と書いたところ、「どうして行ってはダメなの。」という返信が来て、はっとさせられたことがあった。友達は、私の言葉を「なぜ来るのか。」という意味で捉えてしまったのだ。そのとき私が、友達に誤解を与えないようにしていねいに書いていれば、このようなことは起こらなかっただろう。(B)「集合場所までどうやって来るの。」と

3 皆さんの中には、友達同士であれば短い言葉でも十分に意思疎通が図れると考えたり、短い言葉でやりとりができる手軽さこそがSNSのよさだと考えたりする人もいるだろう。しかし、伝えたいことが正しく伝わらなければ、私が経験したように相手に誤解を与え、不快な思いをさせてしまうこともあるのだ。

4 SNSで自分の思いや考えを表現する場合には、内容を相手に正しく伝えるために、言葉を十分に吟味して使うことが大切だ。少なくともあの経験以来、私は、SNSを使ってやりとりをする際には、自分が書いた言葉が必ず読み返してから発信するようにしている。

一 山田さんは、【意見文の下書き】を読み返して、(A)と(B)のように直しました。その意図として最も適切なものを、次の1から5までの中からそれぞれ一つ選びなさい。

- 1 (1)段落で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。
- 2 (2)段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
- 3 (3)段落で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
- 4 直前の文で述べている意見の根拠であることをより明確にしようとした。
- 5 直後の文で述べている意見の根拠となる具体例をより詳しく説明しようとした。

(正答) (A) 4 (B) 1

中学校数学（◇強み ◆弱み）

- ◇ 関数の意味を理解していることでは、全国平均を上回っています。
- ◇ 与えられたデータから中央値を求めることは、概ねできています。
- ◆ 具体的な場面で、一元一次方程式をつくる問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、全国平均を10ポイント以上下回っています。
- ◆ 数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することに課題があります。
- ◆ 平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの原因を説明することに課題があります。
- ◆ ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することに課題があります。

<課題が見られた具体的な設問例>

⑥ 構想を立てて説明し、発展的に考察すること(4つの数の和)

(2) 【数と式】 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題

自然数を5つずつに区切った表があります。この表で、縦に2つ、横に2つの数が入る四角で4つの数を囲みます。例えば、右の図1のように四角で4つの数を囲むとき、左上の数は3、右上の数は4、左下の数は8、右下の数は9になります。

図1

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15

優太さんと真菜さんは、右の図2のように、4つの数を囲んで、それら4つの数の和がどんな数になるかを調べています。

図2

1	2	3	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20
21	22	23	24	25
26	27	28	29	30
31	32	33	34	35

1, 2, 6, 7 のとき $1 + 2 + 6 + 7 = 16 = 4 \times 4$
 9, 10, 14, 15 のとき $9 + 10 + 14 + 15 = 48 = 4 \times 12$
 22, 23, 27, 28 のとき $22 + 23 + 27 + 28 = 100 = 4 \times 25$

優太さんは、これらの結果から、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になると予想しました。

(2) 二人は、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になることが成り立つかどうかについて話し合っています。

優太さん「左上の数が1のとき、左下の数が6になっているね。四角で4つの数を囲むとき、左上の数に5をたすと左下の数になっているよ。」

真菜さん「そうなるのは、自然数を5つずつで区切っているからだね。」

優太さん「左上の数を n とすると、左下の数は $n+5$ と表すことができるね。」

真菜さん「右上の数と右下の数も n を使って表して、4つの数の和について調べてみよう。」

「四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数になる」という優太さんの予想が成り立つことの説明を完成しなさい。

説明

n を自然数として、四角で囲んだ4つの数のうち、左上の数を n とすると、右上の数は $n+1$ 、左下の数は $n+5$ 、右下の数は $n+6$ と表される。これら4つの数の和は、

$$n + (n+1) + (n+5) + (n+6)$$

$$=$$

(正答例)

$$4(n+3)$$

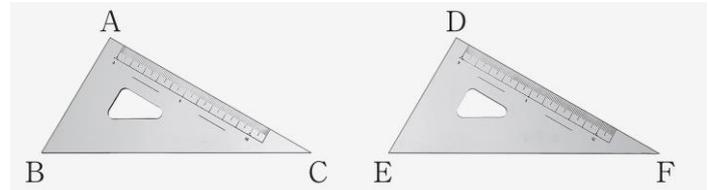
$n+3$ は自然数だから、 $4(n+3)$ は4の倍数である。

したがって、四角で4つの数を囲むとき、4つの数の和はいつでも4の倍数である。

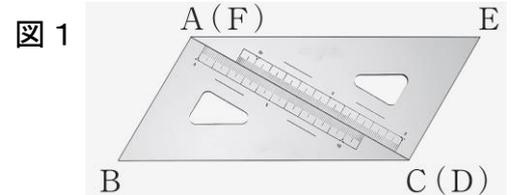
9 平行線や角の性質を基に，図形を考察すること（三角定規）

(1) 平行四辺形になるための条件を用いて，四角形が平行四辺形になることの理由を説明する問題

30°，60°，90° の同じ三角定規を2つ用意し，それぞれ△ABC，△DEFとします。直輝さんと由衣さんは，この2つの三角定規を組み合わせてできる四角形について考えることにしました。



二人は，2つの三角定規を右の図1のように，点Aと点F，点Cと点Dが重なるように並べました。このとき，四角形ABCEができます。



(1) 二人は，前ページの図1の四角形ABCEが平行四辺形になると予想し，予想が成り立つことを示すために，次の図4をかきました。

図4

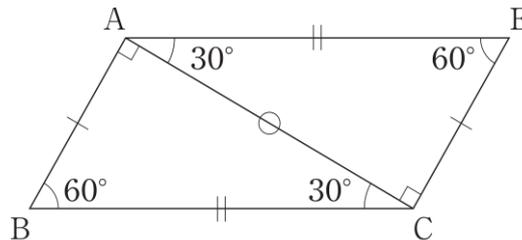


図4において，ABCとCEAは合同なので，対応する辺の長さや角の大きさが等しいことがわかります。

このことから，四角形ABCEが平行四辺形になることは，平行四辺形になるための条件を用いて説明できます。下のア，イのどちらかを選び，選んだ条件を用いて説明しなさい。ア，イのどちらを選んで説明してもかまいません。

- ア 2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。
- イ 2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。

(正答例)

〈アを選択した場合〉

$AB = CE$ ……①

$BC = EA$ ……②

①，②より，2組の向かい合う辺がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。

〈イを選択した場合〉

$\angle ABC = \angle CEA$ ……①

$\angle EAB = \angle BCE = 120^\circ$ ……②

①，②より，2組の向かい合う角がそれぞれ等しい四角形は，平行四辺形である。

5 児童生徒質問紙調査の結果からみた子どもの姿

子どもたちの学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問の結果です。

令和3年度 児童生徒質問紙 (県民運動関連)

項目	小学校											
	市				県				県との比較			
	R3	R2	R1	H30	R3	R2	R1	H30	R3	R2	R1	H30
1 子どもたちの基本的生活習慣の状況(朝食を毎朝食べている・毎日、同じくらいの時刻に起床就寝している)	87.4		86.3	82.4	88.5		89.2	86.0	-1.1		-2.9	-3.6
2 子どもたちの自尊感情の状況(物事を最後までやり遂げる・難しいことでも失敗を恐れないで挑戦する・自分には良いところがある等)	82.2		84.9	71.7	80.2		84.7	83.4	2.0		0.2	-11.7
3 将来の夢や目標を持っている	88.3		74.4	82.7	79.7		82.6	83.7	8.6		-8.2	-1.0
4 平日の学習時間【1時間以上】	46.6		49.5	45.7	59.6		64.2	62.7	-13.0		-14.7	-17.0
5 授業時間以外に読書をする【10分以上】	53.5		63.2	59.8	58.6		63.9	64.4	-5.1		-0.7	-4.6
6 家の人と学校での出来事について話をする			67.5	75.6			76.6	80.0			-9.1	-4.4
7 家で、自分で計画を立てて勉強している	65.0		72.7	63.0	72.8		71.7	67.6	-7.8		1.0	-4.6
8 学校に行くのは楽しい	81.6		86.4		83.2		85.5		-1.6		0.9	
9 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか			80.3	76.4			87.8	86.4			-7.5	-10.0
10 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくださいか			89.7				94.2				-4.5	
11 地域の行事の参加	49.5		59.9	43.3	65.7		74.1	66.7	-16.2		-14.2	-23.4
12 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	50.7		50.4		52.4		52.5		-1.7		-2.1	
13 子どもたちの規範意識(いじめはどんな理由があってもいけないこと、人の役に立つ人間になりたい等)	97.2		92.7	94.0	96.6		95.0	93.7	0.6		-2.3	0.3
14 国語の授業の内容はよくわかる	76.7		83.7		84.9		86.3		-8.2		-2.6	
15 算数(数学)の授業の内容はよくわかる	87.4		77.8	76.4	87.0		85.7	85.5	0.4		-7.9	-9.1
16 国語・算数(数学)の授業で学習したことは、ふだんの生活や社会に出たとき役立つ	93.3		89.3	79.5	92.6		92.5	82.2	0.7		-3.2	-2.7

令和3年度 児童生徒質問紙 (県民運動関連)

項目	中学校											
	市				県				県との比較			
	R3	R2	R1	H30	R3	R2	R1	H30	R3	R2	R1	H30
1 子どもたちの基本的な生活習慣の状況(朝食を毎朝食べている・毎日、同じくらいの時刻に起床就寝している)	86.8		90.0	90.0	88.1		87.5	85.2	-1.4		2.5	4.8
2 子どもたちの自尊感情の状況(物事を最後までやり遂げる・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する・自分には良いところがある等)	86.2		92.4	84.3	77.3		80.0	79.9	8.9		12.4	4.4
3 将来の夢や目標を持っている	75.0		79.8	76.9	70.3		69.5	72.5	4.7		10.3	4.4
4 平日の学習時間【1時間以上】	70.7		50.9	73.5	73.3		67.5	67.5	-2.6		-16.6	6.0
5 授業時間以外に読書をする【10分以上】	49.2		55.3	57.0	46.1		45.5	49.6	3.1		9.8	7.4
6 家の人と学校での出来事について話をする			86.9	72.7			76.0	75.4			10.9	-2.7
7 家で、自分で計画を立てて勉強している	65.6		66.7	62.9	65.0		52.6	54.8	0.6		14.1	8.1
8 学校に行くのは楽しい	89.7		91.2		83.0		83.8		6.7		7.4	
9 先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか			94.7	87.6			83.1	84.2			11.6	3.4
10 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、わかるまで教えてくださいませんか			94.7				87.5				7.2	
11 地域の行事の参加	56.0		56.1	57.0	52.5		56.8	49.6	3.5		-0.7	7.4
12 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある	57.7		61.4		46.9		40.2		10.8		21.2	
13 子どもたちの規範意識(いじめはどんな理由があってもいけないこと、人の役に立つ人間になりたい等)	98.3		99.4	98.1	96.0		95.7	95.9	2.3		3.7	2.2
14 国語の授業の内容はよくわかる	92.2		79.9		83.7		81.1		8.5		-1.2	
15 算数(数学)の授業の内容はよくわかる	79.3		83.3	86.8	77.5		79.1	75.0	1.8		4.2	11.8
16 国語・算数(数学)の授業で学習したことは、ふだんの生活や社会に出たとき役立つ	87.1		90.0	74.0	83.5		84.9	66.6	3.6		5.1	7.4

(1) 豊かな人間性にかかわること

- ◇子どもたちの自尊感情の状況（物事を最後までやり遂げる・難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦する・自分には良いところがある等）は、小・中学校とも全国・県の平均を上回っています。
- ◇「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合は全国・県の平均を上回っており、小学校ではR1年度により、高くなっております。
- ◇子どもたちの規範意識（いじめはどんなことがあってもよくないことだと思う、人の役に立つ人間になりたい等）は、全国・県平均を上回っています。

(2) 家庭での生活にかかわること

- ◇「毎日の朝食摂取や規則正しい起床就寝」については、小・中学校とも全国・県の平均を上回っており、小学校では、改善がみられます。

(3) 学習習慣に関すること

- ◆「平日の学習（それぞれ1時間以上）」については、小・中学校とも全国・県の平均を下回っており、改善が必要です。
- ◆「家で、自分で計画を立てて勉強している」小学生の割合は、R1年度より低くなっています。
- ◇◆「授業時間以外に読書をする（10分以上）」については、中学校では全国・県の平均を上回っていますが、小・中学校ともにR1年度より低くなっています。

6 学校質問紙調査の結果から見えてきた傾向

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問の結果です。

- ◇授業研究や事例研究など実践的な研修が行われています。
- ◇学校運営の状況や課題を全職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいます。
- ◆小中連携に関しては、「研究授業を行うなど、合同して研修を行ったか」「教育課程に関する共通の取組」「学調の分析結果の共有」については課題が残り、今後ますます連携を進めていく必要があります。
- ◆コロナ禍の影響もあると考えられますが、「個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している」「教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させている」結果に課題が見られます。

7 市教育委員会及び学校における今後の取組

(1) 学力向上推進委員会の開催

各学校の授業改善に資するよう、全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの結果を分析し、市全体としての成果と課題について共通理解を図るとともに、紀州教育支援事務所と連携し、学力向上の方策について検討します。また、各校の実践交流を行い、教職員の授業力、実践力の向上を図ります。

(2) 継続した授業改善の推進

- 「主体的で対話的で深い学び」の充実に向けて、指導方法の改善を推進します。
- 「めあて」と「振り返り」を位置づけた授業を展開します。

○学力・学習状況調査、みえスタディ・チェックの結果分析を活用して、自校の強み・弱みを把握し、授業改善に役立てていきます。

○児童生徒が意欲的に学習課題に取り組むことができるようICTの効果的な活用を図ります。

(3) 校内研修の充実

○各校の課題や学習指導要領の内容を踏まえた授業改善に向けて、校内研修の充実を図ります。

○各校の要請に基づき、紀州教育支援事務所と連携して、校内研修の指導・支援を図ります。

(4) 読書活動の推進

○読書に親しんだり、授業で活用したりする活動を推進し、子どもたちが知識を広げ心豊かに成長するよう学校図書館活動の充実と活性化に努めます。

○図書館ボランティアを活用し学校図書館の環境整備と利用拡大を図ります。

○図書館司書の配置（拠点校）を推進します。

(5) 家庭学習の充実

○家庭学習の課題の工夫に努めます。

○家庭学習の方法について、子どもの実態を踏まえ具体的に指導します。

○家庭学習の時間を確保し、学習習慣を定着させるために、家庭との連携を図ります。

○三重県教育委員会が作成している学—Vivaセットやワークシート等を活用します。

(6) 家庭・地域との連携

○時間を決めて学習や読書に取り組むことができるよう、家庭の理解と協力を得て、取組を推進します。また、放課後や地域での学び場づくりに取り組みます。

○規則正しい生活習慣づくりや携帯電話やゲーム、インターネットの適正な使用についてのルールづくりについては、引き続き、家庭・地域・関係機関と連携しながら取り組みます。

(7) きめ細かな指導体制の充実

学びのサポーターの配置を継続し、個に応じた指導の充実を図ります。

(8) ふるさと教育支援事業の充実

子どもたちがふるさと尾鷲に愛着を持ち続けるため、自然、歴史、産業、伝統文化に関わる様々な体験活動を通して、その郷土愛や自尊心を育む教育の充実を図ります。